

あなたが描く黒埴町

応募されたかたがた・35名

中山浩一(加茂市) 佐野みちお(寺地) 樋渡洋子(中学通り) 高橋徳己(板井) 石附夏江(大野) 新木恵子(金巻) 戸枝ヨキ(木場) 奥山優子(鳥原) 宗村日出夫(興野) 宗村あや子(興野) 佐藤博(寺地) 青木和夫(焼鮎団地) 枝並金蔵(山田) 安藤美智子(鳥原) 小林優子(立仏) 丸山正平(板井) 佐藤牧(鳥原) 酒井庄平(中学通り) 樋口隆太郎(新潟市) 大橋京子(黒鳥) 高橋美枝子(大野) 小林範子(木場) 山口セト子(木場) 平石久美子(山田) 鶴間多美子(立仏) 高橋猛(金巻) 山崎フサ(新潟市) 宗村久(鳥原) 永井ムツ(木場) 田沢則夫(白根市) 阿部浄子(善久) 安達竹郎(白根市) 泉井ヨ子(中学通り) 皆川利七(寺地団地) 大谷一男(木場) ※敬称は略させていただきました。

心からお礼申し上げます。アイデア大賞にご応募いただきましたほんとうにありがとうございます。町内外の三十五人のかたから四十六点が十一月三十日まで届きました。さっそく審査した結果大谷一男さんの「緑と心のルネッサンス」が大賞と決まりました。このような催しは今年もやりたいと思います。そのときはあなたもぜひ応募してみてください。そしてあなたの手で町を描いてください。期待しています。

公平に厳正に慎重に

審査

アイデア大賞審査委員は左記のかたがたにお願いしました。
浅妻茂一郎(町長) 大谷要治(助役) 富岡一久(教育長) 土田宏(企画課長) 佐藤貞一(議長) 江端年

一(総務文教委員長) 戸枝勝蔵(農業委員長) 丸山勇(商工会長) 本間春市(農協組合長) 清水善夫(都市懇委員) 鈴木昭(体育協会会長) 笠原文雄(教育委員長) 十二月十三日(火)に審査委員会を役場議場で開きました。委員には数日前から公平をきすため匿名で応募作品を手渡し、検討してもらいました。

「論文があつたりして考えるの時間がなかった。」「耳の痛い苦情もあつて考えさせられた。」など委員の話が聞かれました。

審査基準は①熱意と積極性がある ②発想がユニークでかつ一般の支持が得られる、③具現性が乏しくとも将来を見通したものの、の三点が中心です。

委員からも「わたしたち審査委員も住民なのだから、行政にも申しという素直な形で審査したい」「基準を踏まえて委員個々の観点

で選べばいいのでは」「全く可能性のないものをどうするのか」「大別すれば、商工会へのもの、行政へのもの、将来的なもの、三つがあるようだ」「アイデアというより町への苦情的なものもかなりある」などの意見が出されました。

審査結果

大賞：大谷一男
入選：山崎フサ、枝並金蔵、奥山優子
佳作：樋渡洋子、佐藤マキ、宗村あや子、樋口隆太郎、高橋美枝子、小林範子、平石久美子、宗村久、永井ムツ、田沢則夫

熱が入った審査



初夢には終わらせない

わたしはアイデア大賞をやってほんとうに良かったと思います。少なくとも三十五人のかたが町を真剣に考えてくれたのですから。お金などを考えればできるもの、できないものがあります。実行は難しいことは確かです。それでも、町政をあげる者としてこの声にこたえ、入選したし、ないにかかわらずやれるものからやっていきたいと思えます。(審査会後 町長あいさつから)

アイデアは匿名で投票

大賞は大谷一男さんの「緑と心のルネッサンス」

大賞 大谷一男 木場・40歳
緑と心のルネッサンス

これからは行政に頼るだけでなく、自分たちで町を考えていかなければならないと思えます。わたしのアイデアは、町が土地を提供した木がそこに木を植えていくというものです。その植樹も植える人それぞれの人生の記念にしたいと思えます。

もちろん、木が育つには時間がかかります。でも、子供が生まれた記念に植えた木が二十年后成人したときには大きくなって、「この木はお父さんが植えたんだよ」と



言えるではありません。そんな。今からやれば、すばらしいものができると思えます。

入選 山崎フサ 新潟市・55歳
文化財めぐりの立て看板

数年前に北海道から新潟の方にきたんですが、以前、黒埴町を訪ねても何もわかりませんでした。主人(黒鳥小学校)からいろいろ聞いたんですが、実際に自分の足で歩いてみようと思ってできませんでした。黒埴町にも文化財や貴重な自然がたくさんあるわけですから、このままではもったいないと思っんです。

北海道の小樽には「道しるべ」があつてとてもいいんです。黒埴町は観光地ではないんですが、逆に身近な所に



目を向けて、町を見つめ直すことも必要ではないでしょうか。

入選 枝並金蔵 山田・56歳
町主催のアイデア懇談会

今、あらゆる企業が特許や新製品を追い求めています。自治体も同じではないでしょうか。黒埴町にはたたくさんの問題があります。町もその解決策を考えているとは思っています。住民も身の周りのことは考えています。

しかし、行政は行政だけ、住民は自分のことだけ知っていただければいい時代ではないような気がするんです。自治体と住民がいっしょになつて、お互いに知らないことを話し



合い、その解決方法を探る。その場としてアイデア懇談会を考

アイデアは各課で検討

今後

「ここには町長さんも商工会の会長さんもいる。実行は考えてもらえるのでしようね。」「具現性のあるものは極力町政に反映してもらいたい」などの意見が審査終了後、委員から出されました。

入選 奥山優子 鳥原・35歳
町全体にチャイムを流す

ヨーロッパなどでは教会が鐘を鳴らすでしょう。日本も昔は寺の鐘の音で時刻を知っていたんですけれど最近は大みそかくらいなものです。

鐘は無理でしょうからチャイムなどどうでしょうか。回数はそのなにごくなく決めていいんです。一日に三回か四回くらい。



また、黒埴町のイメージアップのために、町民がチャイムを鳴らせば、もう子供は家に帰る時間だよという意味を持たせるんです。

町でも、アイデアを関係各課で検討する予定です。入選のいかんにかかわらず、貴重な皆さんの声として取り扱っていききたいと思えます。表彰は十二月十九日(月)、役場町長室で行い、大賞、入選の四名のかたに表彰状と賞金を手渡ししました。アイデアが実際に実行されるときは広報で知らせていく予定です。何がそうなるかはわかりませんが、今しばらくお待ちください。